

産業厚生常任委員会会議録

[平成28年 2月12日開催]

南あわじ市議会

産業厚生常任委員会会議録

日 時 平成28年 2月12日
午前10時00分 開会
午前11時54分 閉会
場 所 南あわじ市議会委員会室

I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

出席委員（8名）

| | |
|---------|---------|
| 委 員 長 | 阿 部 計 一 |
| 副 委 員 長 | 谷 口 博 文 |
| 委 員 | 吉 田 良 子 |
| 委 員 | 小 島 一 |
| 委 員 | 長 船 吉 博 |
| 委 員 | 登 里 伸 一 |
| 委 員 | 川 上 命 |
| 委 員 | 木 場 徹 |
| 議 長 | 原 口 育 大 |

欠席委員（なし）

事務局出席職員職氏名

| | |
|---------|---------|
| 事 務 局 長 | 小 坂 利 夫 |
| 課 長 | 塔 下 佳 里 |
| 書 記 | 佐々木 友 美 |

説明のために出席した者の職氏名

| | |
|---------|-----------|
| 市 長 | 中 田 勝 久 |
| 副 市 長 | 川 野 四 朗 |
| 副 市 長 | 矢 谷 浩 平 |
| 教 育 長 | 岡 田 昌 史 |
| 福 祉 部 長 | 馬 部 総 一 郎 |
| 農 商 部 長 | 神 代 充 広 |

| | |
|--------------|------|
| 建設部長 | 岩倉正典 |
| 教育委員会教育次長 | 藤岡崇文 |
| 福祉部子育て支援課長 | 児玉裕仁 |
| 福祉部長寿福祉課長 | 静永峯雄 |
| 福祉部健康課長 | 小西正文 |
| 農商部商工観光課長 | 川上洋介 |
| 農商部農林水産課長 | 宮崎須次 |
| 農商部食の拠点推進課長 | 喜田憲和 |
| 農商部農地整備課長 | 和田昌治 |
| 農業委員会事務局長 | 小谷雅信 |
| 建設部建設課長 | 赤松啓二 |
| 建設部都市計画課長 | 原口久司 |
| 建設部下水道課長 | 村本透 |
| 教育委員会教育総務課長 | 山見嘉啓 |
| 教育委員会学校教育課長 | 廣地由幸 |
| 教育委員会社会教育課長 | 福原敬二 |
| 教育委員会体育青少年課長 | 柏木浩一 |

Ⅱ. 会議に付した事件

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 所管事務調査について…………… | 4 |
| (1) 教育の充実・文化、スポーツの振興と関係施設の整備について | |
| (2) 医療体制と健康づくりの推進について | |
| (3) 青少年の健全育成について | |
| (4) 福祉対策について | |
| (5) 介護保険と高齢化社会対策について | |
| (6) 産業振興の推進について | |
| (7) 農業振興の推進について | |
| (8) 都市整備事業の推進について | |
| (9) 下水道事業の推進について | |
| (10) 農業委員会に関すること | |
| 2. その他…………… | 39 |

Ⅲ. 会議録

産業厚生常任委員会

平成28年 2月12日(金)

(開会 午前10時00分)

(閉会 午前11時54分)

○阿部計一委員長 おはようございます。本日、産業厚生常任委員会を持ちましたところ、執行部各位、議員各位には御出席をいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、産業厚生常任委員会を始めさせていただきます。

大谷福祉課長から、身内に御不幸があったということで欠席の届け出が出ております。よろしく願いをいたします。

市長、何かありましたら。

市長。

○市長(中田勝久) おはようございます。

産業厚生常任委員会のきょうは所管事務調査、非常に多岐にわたっております。いろいろと御協議賜りますことをお願い申し上げます。

先般来、銅鐸のシンポジウムもありました。多くの方が東京、また福岡等々から参加をいただき、また、日本の非常に有名な先生方も特別に講演をしていただいたりいたしました。あと、何とかそのようなすばらしいものでございますので、南あわじ市として、所属も南あわじ市にということになってきております。それを生かしていきたいと思えます。

また、あわじ国もいろいろと反響がございまして、何かきょうも、南あわじ市出身の方ですが、電子通貨ですか、僕も余り詳しくないんですが、そんなことも提案をしてきているというようなこともございます。

いずれにいたしましても、今から少しそういう他の自治体が特に取り組まない、おかしなことは、これはだめですが、そういう問題を起こさないようなものであれば、少し目先を変えた南あわじ市の売り出しをしていくということも大事でなかろうかなと思えます。また先生方のいろいろな御意見も拝聴しながら、今の2点、進めていきたいと思えます。

なお、この後、ちょっと公務が入っておりますので、中座させていただきます。

○阿部計一委員長 それでは、ただいまから所管事務調査を行います。

全体的に行きたいと思えますので、ひとつ、よろしく願いします。

質疑はございませんか。

吉田委員。

○吉田良子委員 ちょっと保育所の関係でお尋ねいたします。新年度からの入所申し込

みの受け付けも終わったのかなと思うんですけども、各保育所の入所希望者の状況というのはどういうふうになっているのでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） この平成28年度の入所申し込みにつきましては、昨年10月に受け付けしております。そして、2月1日現在の、途中入所の方も含めまして報告させていただきます。

公立保育所の入所の児童数が1,084人、私立の施設が245人、合計で1,329人となっております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 公立保育所の中で、これまでも定員を超える申し込みというか、現在でも定員を超える保育所があると思うんですけども、そこら辺の状況もちょっと説明をお願いしますか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 公立保育所において定員を超えている保育所が3カ所ございます。まず、広田保育園が定員150に対して161、そして、榎列保育所が、今現在は90人定員ですけども、4月から120人定員となりますが、126人予定でしております。そして、市保育所が定員150に対して168となっております。

以上です。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 これまでの議会での質問の中で、定員の2割の範囲内であれば受付可能というような話がありましたけれども、それで、1月の広報で保育士の募集がありますけれども、そこら辺で保育士の確保というのは十分できるというふうに思ってるのでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 今回の1月に広報にて職員の募集をさせていただいた

わけなんですけども、今年度の職員の配置につきましては、所長含めて160人の配置をしているわけなんですけども、来年度もおおむねそれに近い数字になるかと思います。

ただ、この3月にも何人かの退職者がおりますが、今回の募集については、ちょっと総務課のほうでお聞きしたところによると、4名の応募者がおるといふふうに聞いております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 この市の広報を見ますと、募集が若干名ということになっております。まだ今、入所が大体ほぼ確定しつつある中で、保育士をどれだけ確保するかというのは、まだちょっと未知数な部分もあるわけですけれども、その4名の中で対応できると考えているのでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 4名の応募の中では、まだ十分に足りてないというように考えております。特に今回、28年度におきましては延長保育の、つまり、夕方の4時～6時の先生の補強をしたいというような考えから、その方々の募集がちょっと少ないというふうなことで、またさらに募集をかけていきたいというふうに考えております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 その保育士の確保がなかなか難しいというのはどういうことかというふうに状況として見受けられますか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） この保育士の不足には、毎年、全国的にこういう不足がちというふうなことで、特に、やはり低年齢の未満児の入所の申し込みがふえてきた状況の中で、やはりそれに保育士の確保ができていないというような状況です。国のほうとしても、そういう施策の中で処遇改善とかいうところを変えていっているというようなことで、南あわじ市におきましても、その賃金に関しても改善していきたいというふうに考えて、今、調整をしているところでございます。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 そしたら、新年度で新規の保育士の採用というのは、正規の方ですけど、どういうふうな状況になってるんですか。退職者と新規保育士の確保というのは、人数的にはどうなってるんでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 今年度の保育士と幼稚園の先生の採用については、4人というふうには聞いておるんですけども、その配置の人数については、まだ確認はしておりませんが、今年度の保育所の先生の退職については2名となっております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 本来なら正規で保育士になりたいという人が若い人の中でも多いし、今、嘱託でかなり頑張っていたらいてる保育士さんの中で、保護者から、あの人が嘱託かということで、信頼をそぐということはないんですけども、正規になったらいいのになというような声も聞くわけですけど。信頼が厚い保育士さんもいるわけで、そういう人たちの採用枠を広げていただければ、また充実するんじゃないかと思うんですけど、いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） その嘱託さんの今、任用して勤めていただく方々についても、今までもその正規採用の枠として、総務課のほうではつくっていただいておりますので、その応募に応じて面接試験なりをやって採用しているところでございます。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 ぜひ、これまで頑張っていたらいてる嘱託職員の方で、信頼が厚い方もたくさんいるように見受けられますので、ぜひその枠も広げていただきたいと。それは人事の問題ですので、そこら辺、副市長いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 副市長。

○副市長（川野四朗） 職員の募集につきましては、公募して試験をするというのが原

則でございます。その試験に通っていただければ、嘱託職員の経験者であれ、新人であれ採用するということになるわけでございます。我々は特に、経験枠というものを特別につくって、その方々の処遇を考えておるといところでございますので、それ以上のことは少しできないのではないかなと思っております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 できないという答弁がありましたけれども、ぜひそこら辺、再考をお願いしたいというふうに思います。

それともう1点、ちょっと保育所の関係でよろしいでしょうか。前、子ども・子育て会議を傍聴したときに、病児保育、病気になったときの保育というようなことの話も少し出てたかと思うんですけども、アンケートでも希望があるというようなことで、そのときに洲本市の中で、県病跡地に特養ができると、その特養の中でそういうことも3市の中で考えられるというような話があったかというふうに思います。

それで先日、ちょっと県病跡地の建物配置イメージ図というのをちょっともらったんですけども、その中では特養と何かパン工房とか、そういうグループホームとか、そういうのは計画の中に入ってるんですけども、そういう保育所的施設というのが配置図の中でないようなんですけども、そこら辺の進捗状況というか考え方は今、どういうふうになっているのでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 病児保育につきましては、子ども・子育て会議の中でも淡路圏域で淡路島内でどう取り組むかというところで計画を進めさせていただいております。それで、昨年8月とことし1月に3市寄りまして、担当者協議をさせていただいたところですが、まだちゃんとした方針というんですか、どういうふうな形で、1カ所でもいいのか、それとも、各3市ごとに拠点を置いていくかどうかというところを、まだ結論に達しないところでございます。

それと、先ほど言いました県病跡の利用の中で、洲本市のほうが以前、保育所の考えもあったようでございますけども、今現在では、まだ何も決まっていないというふうに聞いております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 今、まだ協議中ということですけども、本来なら市それぞれで身近な

ところで預けられる施設というのが望ましいと思うんですけども、そこら、市としては、何年後にどういうところでというようなビジョンもまだ持ってないというところなんですか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 病児保育につきましては、この子ども・子育て支援事業計画の5年の計画の中で、できるだけその方針を決めていきたいというふうに考えております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 希望者がどれだけあるかというニーズの問題もあるかと思うし、どういう規模が適切なのかというのもあるし、そこら辺は十分協議して、早い対応をぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 子育て支援課長。

○子育て支援課長（児玉裕仁） 淡路3市との協議もさらに密にしまして、また、子ども・子育て会議の中での意見を聞きながら決めていきたいと思っております。

○阿部計一委員長 ほかに。
木場委員。

○木場 徹委員 ことしの予算でサッカー場の調査費がついとると思うんですけども、この辺、進捗状況をちょっと説明をお願いします。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） サッカー場、サッカーの専用グラウンドの建設につきましては、よい建設候補地を見つけて、施設の建設計画を立てていきたいということで、その候補地についての検討協議をずっと行ってまいっております。

それで、現在の結果としましては、まだ現在、何も決まっておらない状況でございます。引き続き調査検討中というふうな状況でございます。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 そしたら、そのサッカー場の練習場は、教育委員会としてどのぐらいの規模とか面積とか集客とか、どういうことを考えて今、適地というか候補地を決めようとするんですか。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） 規模につきましては、確保できる用地の広さによっても変わってくることは思うんですけども、一応希望としましては、敷地面積で2ヘクタールから3ヘクタールの間、それで、サッカーグラウンドとしましては、メインピッチ、メイングラウンドになりますが、1面、それと、最低サブグラウンド、メイングラウンドの半分ぐらいの面積なんですけども、選手の方の調整用グラウンドということで、そのサブグラウンド一つは取れたらと思っております。

あと、選手用のクラブハウス、それから、交流試合等をするときの駐車場、普通車で200台程度いけたらいいなと思っております。それと夜間練習するための夜間照明設備、それにまたいろんな附帯の設備というか、入ってくることも考えられるんですけども、今の単なる案ではございますが、そういった規模の練習場を想定しております。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 それで、今お聞きすると、200から400ぐらいの用地が必要やということで、今、既に交渉というか、候補地として挙がってるのは何地区あるんですか。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） 候補地につきましては、まだそういった交渉段階とかいう状況ではないんですが、最初は7カ所、8カ所程度、このあたりがいいのではないかなというふうなことで検討してきた中で、2カ所程度に絞るといいますか、現実的にどうかということ、ちょっと検討させていただいております。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 そしたら、今から具体的に建設というか用地交渉というか、それまで入るまでに、どういう手順でやるんですか。ちょっと説明してください。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） それで、建設につきまして、いろいろと検討協議もしたわけなんです、とにかく用地の確保が第一になってきますので、現在のところは、計画といいますか、この候補地選定に絞りまして、検討協議を続けているというふうな現状でございます。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 そしたら、ことしの予算を置いている、予算不執行でもう流すわけですか。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） ことし、150万円の調査費ということで予算措置をさせていただいております、そのうち、そういった候補地の比較検討資料というか、そういった資料を作成するのに、今のところ約50万程度支出をさせていただくような予定でございます。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 ことし、そしたら50万使って検討するということですが、第一に、用地が決まらんことには、あと進まんということで聞いたんですけども、実際これ、やるとしたら農地の場合は農地法とかいろいろあるし、法律的にここがええというても、いろんな絡みで都市計画法とかあると思うんですけども、この南あわじ市の教育委員会だけでなしに、全庁的に検討会というか、実際どういう、進んでいく中でどういう問題が出てくるかということで、全市挙げてのそういうプロジェクトチーム的なことは考えてないんですか。職員の体制として。

○阿部計一委員長 体育青少年課長。

○体育青少年課長（柏木浩一） 今、委員さんのほうからお話しいただきましたように、いろんな調査をする中で、やはり都市計画法等の、例えば農地の場合は農業振興地域の除外とか、そういったことも法規制の中で出てきております。それで、ことしというか、ず

っと調査してきた中で、教育委員会だけではこの把握ができないといえますか、そういったこともございますので、今後の方向としましては、例えば、農地でしたら農地関係の課とか、例えば建設関係でしたら建設関係の課とか、庁内の関係課の職員で相互に検討なり情報交換のできる場というものを持ちまして、調査段階ではございますが、候補地の選定について進めさせていただいたらと考えているところでございます。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 せっかく2カ所にもう絞り込んどるという話やから、あとはもう法律的な手続とか手順で、何年かかるかとか、そういうことに検討すべきじゃないかと思うんですけども。そうせんと、せっかく候補地が挙がってきても、手続とかいろいろに時間がかかったら、何年も先の話になってしまって、なかなか日の目を見らんと思うんですけども。その辺、今言ったように、全庁的に検討会を開いて、体制づくりをまずすべきじゃないかと思うんですけども。教育長か副市長かどっちか、その辺どないですか。

○阿部計一委員長 教育長。

○教育長（岡田昌史） ただいまの御質問、まさにおっしゃるとおりかなということでございます。特に、今現在、教育委員会内部だけでなく、それぞれ建設部、あるいは農商部、それぞれの担当の方にもいろいろ知恵をいただいております。

問題になってきますのは、どうしてもやっぱりおっしゃってます都市計画法の絡み、農地法の絡みというのがどうしても非常に大きなハードルになっております。ですから、その辺をいかに事業予算として、いわゆる本体のサッカー場の建設の経費と、それに関連する関連工事費、このあたりをしっかりと調査研究する必要があるのかなと、今のところ思っております。

ですから、言われておりますように、改めてそういうきちっとした協議会を立ち上げて、課題の解消に努めていきたいと、このように思っております。

○阿部計一委員長 ほかに。
長船委員。

○長船吉博委員 ことし、南あわじ市の冬の観光の目玉というか、水仙郷、非常に花つきが悪くて、入場者がかなり少ないような感じなんですけども、現状はどうでしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） きょう時点で大体2万3,000人弱でございます。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 今のその花つきの状況は、どのような状況なんでしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 今、全く花がないぐらいの状況でございます。間もなく閉園を控えておりますが、全く花が咲いていないところです。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 多いときだったら10万人ぐらいの入場者がおるんですけども、非常にこの2万3,000人というのは、非常に寂しい思いがいたします。これはやっぱり原因は異常気象でしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） はい。うちの灘黒岩水仙郷以外のところにも問い合わせをしました。どうしてこのような状況になったのかなということだったんですけども、他の3施設、3水仙郷も聞きましたけども、やっぱり暖冬等の異常気象と、うちは降雪による花が折れた原因もあったんですけども、伊豆のほうであれば、爆弾低気圧等で水仙が全部こけてしまってだめだったという話を聞きますし、香川県の水仙郷であれば、全く花が同じように咲いてなかったということで、今、それぞれの水仙郷に問い合わせをして、原因を突きとめているところでございます。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 やっぱりこれだけ少ない入場者になれば、やっぱりその観光の業者さんにもかなりのダメージを与えると思うんですね。だから、その原因をしっかりと調査して、そして、よりよい花つき、よりよいきれいな、観光客の方々には楽しんでもらえるようなものにやっぱり今後していかないかんと思うんで、そこら、対策等についてはどうでしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 来年の開園に向けて、原因を調査しまして、観光客が逃げないように、来年までには原因を突きとめたいと思っておりますので、よろしく願い
いたしたいと思います。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 それと、花つきのいいときであれば、かなりメディアが入ってくれる
わけですね。宣伝もしてくれる。テレビ放映、各民放でやってもらえたりすると、それ
のときにどっと来るわけですね。そんなもひとつ、今後考えた中で、対策の一つとし
て取り入れていっていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） メディアもあわせまして、まずメディアに来ていただい
たときに花が咲いている状況をつくるために、来年の開園までに頑張っていきたいと思
います。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 ちょっと違う部分でもええかな。先般、この6日の日に水産まつりが
ありまして、灘へ行ってきたんですね。本来なら、灘のあの駐車場が満杯になって、シ
ャトルバスで行き来するのに、全くすいていた状況で、2月6日やったらピークやのに、
これは惜しいなというふうな思いがしたんですけれども。この水産まつりに関してなん
ですけども、これは非常に、水産の振興に対して非常にいいことなんですけども、この水産ま
つりにおいてのお客さん、推定どの程度来とったんでしょうか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） ちょっと人数に関しましては、私のほうでちょっとまだ
把握してなかったんですけれども、五、六百人ほどは来てるかなとは思ってますけども。
以上です。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 課長、その水産まつりで五、六百来とったお客さんの反応というか、声。そういうようなん、聞いたことはないでしょうか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） その声というのは、ちょっと私のほうも聞かれなかったんですけども、かなりふるまいなんかでも並んでおりまして、そういう中での、ふるまいやから人気というような形ではないんですけども、興味のあるといたしますか、そういう対応といたしますか、その形はにぎわいも出ているのかなというところがあります。以上です。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 私は、お客さん、かなりの方からこういう声があったんですよ。何や、水産まつりやのに、魚を買いにいったけど、魚があらへんでねえか、これ、何や、ふるまいだけか、そういう声が多かったんですけども、そんなの聞きませんでしたか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） それは聞きました。確かに聞きました。私も今回、ちょっと初めての水産まつりだったんですけども、生の魚というのを出してないということはちょっと私のほうも、個人的にもいかなものかなというところはあるんですけども、こういう形の中で水産まつりが開かれているということで御承知ということで、了解という形でおります。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 これ、保健所の問題もあるんよ、はっきり言うて。調理するんなら、やっぱり水道とか排水とかちゃんとせないかんので、保健所の問題もあるんやけども、やっぱりお客さん、水産まつりと名を打つとる以上は、やっぱり淡路のおいしい魚を買いにきた、うちの嫁はんは何々を買ってきてくれよと頼まれとんのやけど、何もないねんと、こんなん弱ったよ、これ、福良まで行って買いにいかんなん違うかとかいうてやな、そういうこともあるんでやな。

やっぱり、水産振興ということでもあるし、それで、正規のところで料理した生や冷蔵庫だけ持ったたら、ラップして販売できると思うんで、そんなんもひとつ、水産まつりであるから、そんな考えるべきではないのかなと。これは、お客さんがそういうふうに、そこそこの方が言ってましたんで、今後、そういう方向に考えてもらえへんかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） おっしゃるとおり、保健所の関係などがあるかとは思いますが、私どももそういうところ、今後ですけれども、漁協とかでまた話、協議いたしまして、そういうところをまた検討していきたいなどは考えております。
以上です。

○阿部計一委員長 長船委員。

○長船吉博委員 ほんまに、ちょうど今、ワカメも時季やし、あれ、しゃぶしゃぶにして食べてもおいしいし、そんなんも、ふるまいだけでなく、やっぱり地域のいろんなものがあるんで、そういうもののやっぱりいいところ、いいものやというものを、やっぱり買ってもらって食べてもらってというふうなこと、それこそが僕ら、水産の振興につながるのかなと思うんで、今後また漁協と協議した中で進めていってほしいと思います。
終わります。

○阿部計一委員長 ほかに。
谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 サッカー場の関連で、農地法の関係でお尋ねをするわけですが、農地を転用するに当たって、地元の地区であったり水利であったり近隣、農業委員会、その辺である程度手続をしていった上で農地転用を図っていったというような現状やと思うのやけど、その辺、通常、農地の転用をするに当たっての手順をちょっと教えていただけますか。

○阿部計一委員長 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（小谷雅信） まず、転用できる農地かどうかということが肝心なんですけど、御存じのとおり、農振地につきましては転用できないということになってお

りまして、その農振の規制のないところに限って申し上げますと、まず、底地の所有者で事業主体の絡みがあると思うんですけども、一般的には5条申請という申請になるかと思いますが。地元の農業委員会、南あわじ市の農業委員会を窓口として申請をしていただいて、兵庫県知事の許可ということになります。面積の大きさにもよりますが、一般的には都道府県知事の許可ということになります。

もう1点は、許可が要るか要らないかということにもなるかと思うんですけども、収用法によるいわゆる収用事業ということになりますと、許可が不要ということになるんですが、サッカー場につきましては、具体的にどうなのかということになってこようかと思えます。恐らく、要るのではないかなというふうに思いますが、その収用法にかかれば許可は要らないということになります。

以上です。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 いや、今、農振地であったって、転用していただいたケースもあると思うのやけど。農振地はできないというような答弁やったと思うのやけど。農業振興地域であったって、うちのエリアで農振除外していただいたところもあんなけんどよ。その辺の手続はどうなんですか。

○阿部計一委員長 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（小谷雅信） ただいま御質問の農振につきましては、農林水産課のほうが所管の事務でございますが、そこで農振除外という手続が1年に1回ございます。そこで認められれば、当然、農振の用地外ということになりまして、転用できるわけなんです。それが認められていない農振、農用地という場所の位置づけになりますと、農業施設、あるいは一時転用ということしか転用できませんので、恒久的なサッカー場はできないということになっております。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 例えば、サッカー場の建設に当たって、収用法というか、その辺はもう不可能なのか、それとも、ある程度市の公共の施設で、やっぱり公益というか、そういうことによって収用法にかかるようなケースというのは、私はいけると思うのやけど、その辺の見解としては、今の認識はどういう認識をお持ちなんですか。

○阿部計一委員長 農業委員会事務局長。

○農業委員会事務局長（小谷雅信） その収用法の中でも、公用の施設と、公益のための施設ということで、どんなふうに該当するのかというのは、今すぐさまなかなかお答えはちょっとできにくいんですけども、例えば、一般的な収用事業であります道路法であったり河川法であったり、学校教育法によるものであったり、そういったものであれば、許可不要というのはすぐわかるんですけども、ちょっとそういう実例も、実はございませんので、今すぐに正確なお答えをちょっとしかねておる次第でございます。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 ちょっと関連やけども、それはまた調べといてもろうて。ちょっと地籍の進捗についてお尋ねすんねけど、地籍調査の。特に西淡地区の地籍の進捗、今どのようななるとるんですか。

○阿部計一委員長 建設課長。

○建設課長（赤松啓二） 地籍調査の進捗状況なんですけども、今、市全体では42%で、おっしゃっております旧の西淡地域なんですけども、これは15%というような状況でございます。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 ほんで、今、この西淡地区はどこを地籍調査されとるんですか。

○阿部計一委員長 建設課長。

○建設課長（赤松啓二） 今、調査しているのは慶野、それと古津路ですね。津井のほうも今度、予定には入っております。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 要は、私も地籍が確定的でないさかい、慶野地区のエリアでも、道路の未整備な部分、かなり悪いところがでけらん。結局、萬松園の近辺でも、地籍というか国有地かどうかわからんような状況で、今回も萬松園解体しよったっていうたって、

文化庁からストップがかかったりとか。あの辺、どういうふうな。昔の旧の西淡町いいかげんなことやってとったんで、地籍すら確定でけらんと。ほんま、道路を直せいうたって、その辺の境界がでけらんさかいどうじゃこうじゃいうような問題があるので、この辺の地籍をできるだけ速やかに進めていただきたいというのを要望して、終わりますわ。

○阿部計一委員長 ほかに。
川上委員。

○川上 命委員 伊加利のこども園のほうも大分工事が着々と進んでおりますが、この4月に開園というんか、それに向かっとるんですが、内容的にわかっておれば、ちょっと御説明をお願いいたします。時間的なこと。名前もそのままいくんか、そういったこと、ひとつよろしくをお願いします。

○阿部計一委員長 学校教育課長。

○学校教育課長（廣地由幸） まず名称ですけれども、伊加利こども園ということでスタートします。名称はどうなるかということですので、名称については、伊加利こども園として4月から開園をいたします。

それから、利用定員につきましても40名、入園希望数につきましては、現在24人の希望があがっております。なお、3歳児未満につきましては、現在、6人の希望を承っております。まだ若干問い合わせ等がございますので、人数についてはふえる可能性もございます。

○阿部計一委員長 川上委員。

○川上 命委員 幼児の時間的なことはわかっておりますか。

○阿部計一委員長 学校教育課長。

○学校教育課長（廣地由幸） 利用時間につきましては、月曜日から金曜日まで、これは2号認定、3号認定につきましては、午前8時から午後6時まで、土曜日につきましては、午前8時から午後0時までという予定になっております。

なお、1号認定の子どもさんにつきましては、幼稚園と同じという形で進めていきます。以上です。

○阿部計一委員長 川上委員。

○川上 命委員 それと、教育委員会にお聞きするんですけど、この間から辰美中学校の跡地に関して、再三再四、いろんな業者とかそんな人が訪ねてくるんですけど、この間も一つ、業者の方が訪ねてきて、どない計画しとるんやというような形の中で、そんなことは議員しとってもわからんということで、教育委員会に聞いてくださいということで、そういったことに対してかわしたんですけど、これは、辰美中学校、誰が見てもあの校舎が建ってるのを見たら、非常にもったいないなというようなことを言われます。

どないするんやという意見も多くあるわけですが、こういった学校の跡地対策も、灘小学校のほうも何か御破算になったように聞いておりますが、そういった面の中で、計画そのものがあるんか、もう全然、今手持ち無沙汰でおるんか、そういったことについて、ひとつ御説明をお願いいたします。

○阿部計一委員長 教育総務課長。

○教育総務課長（山見嘉啓） 辰美中学校の跡地については、今まだ教育財産ということで、後の利活用がまだ定まってないということで、今のところ、教育財産でそのまま置いております。灘の小学校については、企画部のほうで企業誘致等を進めておるということで聞いております。一般的に学校の跡地については、やはり市全体の跡地利用を検討して、早期に課題解消に努めるべきというふうに考えております。

以上です。

○阿部計一委員長 川上委員。

○川上 命委員 この跡地利用ですが、西淡が一番多いわけですが、津井小学校は福祉施設ということで、非常にすばらしい施設を誘致したわけですが、あとの丸山、阿那賀、伊加利が今、地元で一応預かった中で管理し、掃除を掃除賃をもってしとるんですけど、この間も学校管理の中で、ことしになって教育委員会のほうから、公民館のほうから、整地に、掃除に対する予算をつけたんですけど、その予算について、シルバー人材センターが請け負うからもうよろしいというようなことを言われたんで、私、今までの約束事から、いろんな事業の流れの中で、かなり御立腹して意見を言うんですけど。

そういったことで一応、3地域の掃除賃はそのまま、下がった中で契約をまたさせていただいたんですけど、しかしながら、そういったようにものを、そういった格好の跡地を地域に頼んでおきながら、こちらの執行部のほうの都合で掃除賃を下げる、いや、シルバーのほうに渡すんじゃないという、そういうような方針の一つも定まらんようで、そのときその

ときのさばきでは、これは大変地元も弱るわけですが、そういったことについてどう考えておるんですか。

○阿部計一委員長 社会教育課長。

○社会教育課長（福原敬二） このたび、その件につきましては、大変地域の方に御迷惑をかけたということは認識をしております。ただ、私どもの施設として、旧西淡における学校跡地、要するに普通の公民館であれば、そういうグラウンドとか校舎になる部分、敷地面積が少ないので、全てシルバーに現在お願いをして、草刈りであったり、敷地内の清掃なりをお願いをしているので、できるだけ足並みをそろえて、地元の方が多分シルバーに入ってますので、そういう方々にお願いをしながらということでお話を多分、進めたんだというふうには解釈しております。ただ、地域の方に御迷惑をかけましたので、元のようにさせていただいたということでございます。

○阿部計一委員長 川上委員。

○川上 命委員 いや、元のようにというけど、元のようにならん。結局、言うたことに対して、ある程度、シルバーだったらこれだけの値でしますから、3地区もその値にということは、そんな値ではできませんわというような形の中で、交渉した中で、かなり下がったわな。そういうように、そやさかい、もう1年もしたら、またシルバーにとられてしまうのと違うかと地元の間が言うねけんどな。そういったもの、安易な考えで物事というのを考えとるんかな。どうですか。

○阿部計一委員長 社会教育課長。

○社会教育課長（福原敬二） 安易と言われれば、ころころ変わったということなんですけれども、やはり適正管理をいかにしていくか。確かに、先ほど言いましたように、面積的な部分も考慮していかなきゃなりませんので、そういうところで今回、公民館のほうでいろいろ協議をした結果、交渉してきたというふうには聞いております。

○阿部計一委員長 川上委員。

○川上 命委員 これから学校統合とかいろんなあるわけで、空き地が、公共地がかなりできてくるわけですが、そういったことに対して、もう少ししっかりとした構想を練った中で、将来展望もやっぱり議員の皆、我々にも教えていただくということであれば、

いろいろ市民に聞かれてもわからない点が多々あるんで、そういったもの、ひとつ情報はやっぱり提供していただきたいと。もっと将来展望というものを、もっとしっかりと構想を練っていただきたいと思うんですが、どうですか。

○阿部計一委員長 教育次長。

○教育次長（藤岡崇文） 今、委員がおっしゃっていただいたように、教育施設といいなながらも、廃校になった部分については、そういった維持管理の部分で非常に課題も抱えておりますので、今、委員がおっしゃっていただいたように、今後、教育委員会のほうで進めさせていただきます施策全般につきましても、今までもそうなんですけれども、そういう方針が決まりましたら、また報告はさせていただきたいというふうに思っておりますし、できるだけ地元とも協議を重ねながら、そういう方向に向けて方針を検討してまいりたいというふうには考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○阿部計一委員長 ほかに。
木場委員。

○木場 徹委員 松原荘の関係のことでお聞きします。松原荘の会計、御存じのとおり宿舎の会計と海水浴と陸の港の高速バスの販売と、3本立てでやっておると思うんですけど、その辺の状況、今の現状をちょっとお話し願ひます。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 今、木場委員がおっしゃられたとおりの予算の内容でございます。細かい金額については、ちょっと私も今、定かに覚えてないんですけれども、陸の港の入場収入が全体の動いとる金額が1億2,000万ぐらいで、全体の予算が3億5,000万ぐらいとすると、海水浴場収入と陸の港と松原荘の売上が、三つ集まって3億5,000万ぐらいの予算で組んでいるところでございます。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 一つ、1点目は宿舎が昨年、ああいう食中毒ということで休んで、かなり影響を受けたと思うんですけど、その売上とかは、まずどうですか。回復してますか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） あの時点で若干、売上というかお客さんのほうがちょっと少なかったわけなんですけども、今回、松原荘の方が頑張っていたしまして、12月のところは若干売上が伸びたというところがございますので、3月まで後1カ月半ぐらいですけれども、若干戻したというか、当初予算のところ、予定よりは若干落ちてますけれども、戻しつつあるということ聞いております。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 今、戻しつつあるということですけど、あそこ、御存じのとおり、大半はもう夏場の売上で、冬場は逆に、何とか維持するのが精いっぱいと思うんですけども。私が言いたいのは、次はほんだら、海水浴はどないですか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 海水浴は、昨年と比べてちょっと売上自体は、部署によっては、駐車場とかいろいろ別のところですけど、まあまあ来たという状況で聞いてますが。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 まあまあということだったんですけど。何が言いたいかというと、要は、松原の海水浴場というのは、民間が、慶野の地区が組合をつくって、北のほうですよ、いろいろ海水浴場とシャワーとか駐車場とかキャンプ場とかやっとなるわけ。それで、古津路地区というか、昔はそこも地区がやっとなったんですけども、いつかの時点で役所が直接やるようになったと。それで、片方は民間、片方は官が、市がやっとなるわけ。

それで、私が言いたいのは、その忙しいときに、夏場の忙しいときに宿舎の職員が海水浴場の運営にもやんなあかんと。それで、やっぱり人手が不足になるということで、古津路地区、今やっとなる市のほうの海水浴場も民営化を考えたらどないかということです。

例えば、慶野地区と一緒に合体するとか、それとも別のそういう民間のやりたいという意欲のある団体とか、そういうところに任せたらどうかということをお願いしたいんですが、その辺はどうですか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 私も、確かに以前、松原荘にいたときは、古津路と地区組合等がその浜の売店とかいろいろなところを管轄しとったと思いますが、今、慶野の方がやってて、こちらのほうは松原荘が管轄しており、地元の方を一応、雇うというか来ていただいて運営をしておりますが、将来的には今、木場委員さんが言われたような方向も一つの案かなと思いますので、松原荘の全体の中でも、松原荘の中でも海水浴場収入というのが結構ありますので、全体のことも民間に渡すのかも含めて、協議の中には、お話の中には入れて話し合っていきたいなとは思っています。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 ぜひ検討していただいて、やり方はいろいろあると思うんですね。ですから、宿舎の職員は本来の宿舎事業に専従にやるという方向で、ほかの、もう一つの高速バスの場合も、別にあれ、松原荘がやらんなんというあれはないと思うんですけども。それもやり方があると思うんです。だから、その辺考えて、宿舎は宿舎で、もう本来の目的である事業に専従に没頭するという体制をとってほしいと思うんですけど。もう一度お願いします。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 国民宿舎慶野松原荘、本来の国民宿舎というところの事業の部分に海水浴場収入と陸の港の部分があるので、木場委員さんが言われましたような、そういった事件もなく、宿泊施設として十分にやっていけるように、切り離す方向も一つの協議の内容としまして、泊まりの部分も頑張ってくださいということも含めまして、今後、協議していきたいと思っております。

○阿部計一委員長 暫時休憩します。

再開は、11時10分といたします。

（休憩 午前11時00分）

（再開 午前11時10分）

○阿部計一委員長 再開します。

御質問はございませんか。

吉田委員。

○吉田良子委員 さっきも言った1月の広報の17ページに、あわじ島まるごと食の拠点の関係で出荷者募集中と、これは公告になるんですかね、出てるんですけども、これで1月中旬にも視察研修を行います、興味のある方はお問い合わせくださいというふうになってるんですけど、この出荷者募集で大分募集は集まりましたか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 少数としか聞いてなくて、数字は今、把握できておりません。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 それともう一つ、今、朝の浜村淳のラジオ放送があるんですけども、その中で3年とらふぐの宣伝とかしてるんですけども、これは南あわじ市提供というふうに言われてます。あれは、予算的にはどんな感じで幾らぐらい出してるんですか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 約1カ月で、この間の浜村淳の公開収録と南あわじ市のホテル5施設の商業も込めて約500万です。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 それは、財源としては市の予算ですけども、国とか県とか、そこら辺の配分はどうなってるんでしょうか。

○阿部計一委員長 商工観光課長。

○商工観光課長（川上洋介） 国の予算です。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 それで、2月7日に公開録音というか、ラジオ放送がありましたけれ

ども、そのときにあわじ国のことも浜村淳さんが言ってくれたんですけども、参加者で拍手が少なくて、認知度が低いなというような、浜村淳さんのちょっとコメントがあったんですけども。地元の人に余り周知してない、できてないというのがちょっと感じられたんですけど、そこら辺はどんな状況でしょうか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 御指摘の部分も多々あります。本事業のまず目的は、淡路島の外の方に、淡路島あるいは南あわじを知っていただくということで、そのきっかけに注目するために、ああいうような形でさせていただいてます。テレビ局も「ちちんぷいぷい」とか、いろいろ取り上げていただいたり、ヤフーニュースとかバイラルメディアのほうにも拡散するほうにも、大分、「あわじ国」と引いていただきますと、検索していただきますと、ずっと出てくるようになりました。

ある程度して、今度は、東京のほうのテレビ局にということで、今、フジテレビ、あるいはきょう、本来、朝出るはずだったんですけど、別のニュースが入ってちょっと延期になったんですが、それは無料でいろいろとやっていただくような形になってます。

御指摘の市内については、こういうある程度求心力が出てきましたので、パスポート制度、あるいは観光商品の連携ですね、宿泊、飲食、あるいは集客施設と連携した何かができないか。きょう、市長が御挨拶で冒頭にした、違う仕掛けづくりができないか、また、まだ公表できないですけども、姉妹提携国ということで、神戸のある施設にお邪魔して、あわじ国のパスポートを見せると10%減というような交渉もしてきて、次なるニュースソースとして提供できるようなものを仕掛けしております。

ですから、次年度、今も加速化交付金を申請中ではありますが、3月補正で100%の国補助金ですけども、申請中ではありますが、獲得できれば市内とあわせて、次なる対策をとっていきたいというふうに思っております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 国民投票とかいうのは期限つきでありますけれども、そしたら、今の話でありますと、また引き続き、国からの交付金とかがあれば、あわじ国というのはまだ継続できるというようなことになるんですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） はい。そのとおりです。今後の展開も今、考慮中で

はあるんですけども、まずは日本全国に発信をして、淡路島、南あわじ市を知っていただく、あるいは特産品を買っていただく、あるいはふるさと納税に関心を持っていただくという方向に何とか持っていきたいというふうに思っておりますので、ぜひとも国100%補助をいただきにいきたいということで、今、調整をしております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 そこらの見通しは、もう見えつつあるというふうに。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） このたび、1,000億、国が補正予算で上げております。全国1,700余りの市町村がこぞって取りにきております。秋に3,300万通していただきましたですけども、それは兵庫県下41市町村のうち16しか取れませんでした。このたびは、相当厳しくチェックを受けておりますので、非常に不安を持っておりますが、対策としては、新規性、先駆性とか、連携事業、いわゆる一つの事業でなしに、いろんな事業と絡ませてやってくださいよとか、非常に縛りがきつくなってきておりますので、不安視はしておりませんが、何とか取らせていただきたいというふうに思っております。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 これまでの頑張りを引き続き、交付金をいただいて継続していただきたいと思いますが、そこら辺も矢谷副市長も、その国との絡みというところではどんな感じなんでしょうか。

○阿部計一委員長 副市長。

○副市長（矢谷浩平） 私が聞いている限りですと、今回の交付金の申請、まず、県を通じてやっているようでございます。時間的なものもあると思うんですけども、今、担当課長のほうから答弁ありましたとおり、前回の3,000万のときよりも、若干やはり審査が厳しくなってるのかなという印象は持っています。

ただ、申請をして向こうでチェックして、ああ、これだめよと言ってポンと蹴られるのではなくて、ここをこう直してください、あるいは、ここについてもっと詳しく教えてくださいと、そういうアドバイスが国のほう、内閣府のほうから来てますので、それに従っ

て、きちんとその言われたことにこたえていけば、幾ばくか、ある程度は交付金というのを、満額ではないにせよ、もらえるのではないかなというふうには考えています。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 私も関連してお尋ねするわけですが、一部の市民の方は、何をしよんねんと。3,000万の金というようなことを誤解されとる方もかなりいてるわけやね。先ほどおっしゃったように、私はこのあわじ国ということで、3,000万円、国から全額補助金で、これは国のやつやから税金といえば税金なんやけん。

それで、これは南あわじ市、あわじ国独立宣言というようなことで、ニュース性があるから各民放、各メディアが取り上げてくれとんねん。これは、シティプロモーションで言いましたら、南あわじ市は日本全国でもトップランナーどころか最先端を行っておると、私はそういうふうな自負心があるわけやね。

そやけど、市民の方々には説明というか、あなた方も、これはもう、南あわじ市の金は一般財源から10円も出とれへんでということをもっと大々的にやっていただいて、ほんで、市民も認知度というか、全国に発信するというのは非常にええことなんやけん。

それと、今回もそのようにやっぱり、先ほど同僚議員がおっしゃっておったように、これ、継続してやっていただかんことには、まだまだあわじ国というようなことで、南あわじ市、いろいろなさまざまな食材を全国発信するには、まだまだもうひと頑張りやっていただかんなんねん。

そやから、そのあたりを市民にもそういう認知をしていただくために、ケーブルの榎本君もあれだけこう、だから、もっとケーブルテレビ、市内向けにもああいうやつをどんどん映像として放映していただきたいというような思いがあんねけど、その辺どうですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 御指摘のとおり、今、三つの動画、1弾、2弾、3弾とケーブルテレビで放映をしていただいております。前段の御質問でありますように、行政がここまでしていいのかとか、淡路島のイメージが悪くなるとかというような御批判もいただいておりますが、もっと御批判をいただくとするんですけども、全体の1割程度かと思えます。

また、お土産話ポスター展というふうなこともやってるんですけども、それについてもこういう文言は腹が立つのですぐ撤去せえというようなことも言われたりもします。大変恐縮なんですけども、南あわじ市を知っていただくと、そこから、まずなりふり構わずやらせていただいております。

ギャップ調査ということで、1万人調査を商工観光課のほうでやっていただいています。そのうち、1,000人が東京です。淡路島に来たことがないのが50%、淡路島そのものを知らないというのが27%ですか。ですから、77.4%の方が、淡路島に来たことがない。で、4分の1の人が来たんですけども、そのうちの40%が北で終わって、南あわじに来てないという統計結果が出ております。統計上、500人以上でしたら、ほぼ近い数字になってきますので、1万人調査で。

それらをもとに、今後、どう展開するかということも商工観光課と協議もしておりますし、何としてでも物を売って、来ていただいて、市内に外資を入れて、それを循環させて仕事づくりに結びつけていくと、所得の安定に結びつけていって、定住にもっていかないと、やはりどうしても回っていかないというふうに感じておりますので、また御支援、御助言をお願いしたいと思っております。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 いわゆる第3段階、第4段階というか、その辺も次、またやっていかれると思うのやけど、それは、4回分というたらさきの予算というのはもう執行してしまうわけですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） はい。年度内事業ですので、3月末で終了と。新規については、議会の先生方に御承認をいただいた予算に基づいて始めるということになります。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 今、第1弾、第2弾、第3弾と来とって、第4弾。それと、アクセス数というのか、その辺の数字というのをちょっと一遍、どのぐらいアクセス数を把握されておられますか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） アクセス数については、いろいろ細かい、私も詳しくわからないところがありますが、ユーチューブの再生回数、これが皆さん一番わかるところで、先ほど、最先端とおっしゃっていただいておりますが、まだまだ私自身は20点

ぐらいというふうに思っております。今、5万7,000か8,000ぐらいやったと思います。3本、5万8,839がきのう、夕べ時点です。

参考に、「シンフロ」という大分県のシティプロモーション、これは地域を紹介するのもそうなんですけども、温泉そのものをポンと出していっております。5カ月で116万回で、小林市、宮崎県ですけども、いなか弁で紳士がしゃべってるんですけど、それがフランス語に聞こえると、これが160万回の回数が再生されております。

これはなぜかといいますと、全くのはしり。小林市は8月末、大分県は、たしか9月末やったと思います。そこから始めております。うちの場合は、1月11日ですから、二番煎じ、三番煎じと言われたりもしますけれども、内容をちょっと突っ込んで、ウェブページもしっかりつくってやっておりますので、ぜひとも東京のメディアに何とか取り上げていただけたら伸びるというふうに思っておりますので、今、フジテレビと日本テレビ、ちょっと延期になりましたが、何とかしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○阿部計一委員長 谷口副委員長。

○谷口博文副委員長 ユーチューブで再生というか、やっぱり話題というか、おもしろ味というか、そういう視聴者というか見ることによって、何か学び取るというか、おもしろいというような感覚も必要なんやね。私もまがりなりにフェイスブックをして、いいねをして、拡散というか、その辺の努力もさせてもらおうとんねけんど。

今から第4弾、さまざまな市内のさまざまな観光施設、その辺も各宿泊施設もしっかりと映像として撮ってあげて、それは、コアラも何か変なコアラ、おもしろいコアラの、これはいてませんとかいうようなことが出とんのやけんど。あの辺もやって、どんどん他市に負けらんように私はやっていただきたいと思っておりますので、頑張ってください。

○阿部計一委員長 ほかに。
木場委員。

○木場 徹委員 えらいい話ばかり続いとるので、えらい申しわけないのやけど、水を差すようで。実は、この間、ある水産関係の人と話をしとったら、今、沼島漁協が美菜恋来屋で魚を初め水産関係の品物を出していると。ところが、売上がどうも芳しくないということで、3月いっぱいをもって撤退するというようなことをお聞きしたんですが、この辺については何か情報を聞いておりますか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） その話は聞いております。聞いておりますけども、この2月にまたそういう話のことで協議をするということで、また水交会なりとあわせて協議をすることを聞いております。

以上です。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 ということは、条件次第では、引き続いて4月以降も商売をしていくということで、そういう話なんですか。

○阿部計一委員長 農林水産課長。

○農林水産課長（宮崎須次） それも、その2月のときにまたそういうことで、どうするかというところをまた話をした上でのことになるかとは思いますが。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 契約的には、3月いっぱい更新になっておるんですか。契約関係。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） まずは、あそこに沼島が入った経緯なんですけれども、まず、水交会にお願いをして、水交会に了解をいただきました。その中で、沼島漁協の青年部が手を挙げられて、入ったという経緯がありますので、今、御指摘のお話は、まず水交会に諮って方向性を見出すというような形になろうかと思えます。

ただ、今、沼島の魚を南あわじ市内で食べようと思っても、なかなか食べられません。非常に赤字もあるということでしておりますが、やはり外向けにPRするその拠点として入っていただいておりますので、ここの一、二年は我慢どきというふうに思っておりますので、頑張ってくださいというふうに感じております。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 頑張るやけど、何か今までと違った取り組みとか支援とか、何か考えているということでよろしいですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 水産振興上の事業の連携というのもありますし、あわじ国もその一端であります。まずは知っていただいて、いいものを食べていただく。美菜恋来屋に最終、市内に入っていったお客様に寄っていただいて、地元の特産品を買っていただくというような形の流れをつくろうとしておりますので、何とかというふうに思います。

しかしながら、やはり売るにはそういうデコレーションといいますか、それとか営業、これは、きょうはお魚がおいしいよ、買ってねというような、その営業がまだまだ不十分というような御意見もありますので、またポップの仕方、表現の仕方、ここら辺をどうするかという御指摘も周りからありますので、そこら辺も協議したいというふうに思います。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 昨年、この産業厚生委員会でそういう直販所の視察をしたときに、そこも農協の系列の経営やったと思うんですけども、そこは一旦、その会社が、直販所が魚を購入するには、漁協に行って直接仕入れをして、それで自分のところで料理をして売っていると、そういうやり方しておるんです。全然うちのやり方と違うわけです。そういう方法は考えられないんですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 運営主体があわじ島まるごと株式会社、森代表でありますし、支配人がいらっしゃいますので、そこら辺もずっと協議はしております。内容についても、そのような御指摘を再度申し上げさせていただきたいというふうに思います。

○阿部計一委員長 木場委員。

○木場 徹委員 ぜひ、そういうやり方も支援の一つやと思うんで、ぜひ、その辺を検討していただいて、美菜恋来屋に魚がなくならないように、何とか課長の努力で、南あわじ市のおいしい魚も一緒に販売するという方向でお願いしたいと思います。

終わります。

○阿部計一委員長 ほかに。

吉田委員。

○吉田良子委員　　今の話の中で、1月19日に吉備国際大学でシンポジウムがあったときに、森組合長が、水産の関係では赤字経営やというようなことを言われておりましたけれども、現実、そうなるんでしょうか。

○阿部計一委員長　　食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和）　　赤字と聞いております。現状を申し上げますと、魚の部分については、海産物の売上が3,480万ほどですね。そのうち沼島関係が1,440万ほどという形になります。このパーセントについては、海産物は、市内3業者のくぎ煮とかいうところですね、そこから25%をいただいて、そのうち10%を美菜恋来屋、10%をこの運営費、5%を沼島の漁協手数料ということで、テナントに物を置くだけで、置いて売るだけでそれだけ入ってくるような仕組みにしております。

沼島単独では、今言う1,400万余りということですので、ここら辺がなかなか、それを足してでもちょっとしんどいというような形になっておりますので、今後、具体的な協議の中で、どういう展開になるかは今からになろうかと思えます。

○阿部計一委員長　　吉田委員。

○吉田良子委員　　それと、今先ほど、食べてもらってお土産を買ってもらうという考え方の説明がありましたけれども、食べるといっても、少してんぷらとか酢漬けみたいな感じのやつはちょっと前で売ってますけども、やっぱり私は、2階のレストランの活用というのももう少し考えていく必要があるのと違うかなと。2階のやっぱりレストランで地元の食材を食べられるというようなことで、ああ、おいしかったな、そしたら下で買おうかというような、やっぱり循環をつくるような仕組みでないと、ああいうちょっとお恥ずかしいパック詰めでは、なかなかおいしさを理解してもらうのは厳しいかなと。そこら全体として、あそこで展示しているというか、それを2階でうまいこと活用できるような仕組みを考えたらどうかなと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

○阿部計一委員長　　食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和）　　今、議論の主になっているのが、一品でもいいから並んで買うような品物ができないかというようなことです。そう簡単にできるものではありませんけども、そういう分野を試験的に、カレーであったりハンバーグであったり、

いろんなどころ、森代表を中心に食べにいったりということもされております。

上との関連については、サラダバーを初めにやっていたわけなんですけども、なかなかお客さんが安定して来ればいいんですけども、ちょっと劣化すると、なかなか。それから結構下準備に時間を要したので、今はちょっと休止をしとるわけなんですけども、その分、ほかの素材で使っていただくような。基本的には、美菜恋来屋で朝買って、出荷してすぐに買って、8時ぐらいまでに上に持っていくような形の仕組みはできておるんですけども、それを料理にまでどう続けるかというのは、また連携しながらということになるかと思えます。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 そこら辺も再考してもらわないと、なかなか地元のものを食べて、ほんなら買おうかと、お肉を含めてですけども、もうちょっとレストランの活用というのを抜本的に変えていく必要があると違うかなと思うんですけど。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 以前からもそういう議論もありますし、本日も再度御指摘をいただいたので、もう一度協議をさせていただきたいと思えます。

○阿部計一委員長 吉田委員。

○吉田良子委員 私の近くの地元の方は、喜田課長もよく御存じの方が毎日のように沼島の魚がおいしいと買って買いに行ってるようですので、引き続き何とか継続できるような形と、レストランのこともぜひお願いしたいと思えます。

終わります。

○阿部計一委員長 ほかに。

登里委員。

○登里伸一委員 課長が欠席で申しわけないんですが、介護料金のことと、介護士への処遇改善で、さきに政府が法律を通して、介護料金の減少をさせて、介護士への報酬を増額するということがありましたね。処遇改善加算というのがそうだろうと思うんですけども、その辺の、ある施設では、職員に余り渡さんと、自分の懐へ入れとったという問題がちょうど起こってきとるんですけども、そういう、まず仕組みの説明と、そういう検証す

るのはどこの機関がやっとするのか、わかりましたらお聞きしたいと思います。

○阿部計一委員長 長寿福祉課長。

○長寿福祉課長（静永峯雄） 処遇改善加算のほうは、施設のほうから提出されたものを市のほうでチェックしております。何%というふうな形で、提出したものについてはそれを了解しているというふうなところでございます。

○阿部計一委員長 登里委員。

○登里伸一委員 詳しくないので、その辺がよくわからないんですが、範囲は何%内であつたらよろしいと、そういうことなんですか。それとも、全額いかないかんというような形になっておるんですか。

○阿部計一委員長 長寿福祉課長。

○長寿福祉課長（静永峯雄） その率については、ちょっと今、確認はできてないんですけども、平成22年から始まったとは思っているんですけども、そういった中で、2年間、3年間であつたりというふうな形であつたんですけども、それがずっと引き続き今も続いているというふうなところでございます。

○阿部計一委員長 登里委員。

○登里伸一委員 その問題はまたいずれ、恐らくテレビでやかましく言い出すと思いますので、またお聞きしますが、実は、橋梁の耐震化、老朽化ということですけども、県道なんですが、三洋橋というのがありますね。志知の新川の上にかかっているんです。あの橋は、道路が通ってからもうずっとあるんですけども、そういう関係はクリアしとるんでしょうか。

○阿部計一委員長 建設課長。

○建設課長（赤松啓二） 市道については、約720全てこちらのほうで、市道にかかっている橋梁については管理しておりますけども、県が管理している橋梁については把握しておりません。

○阿部計一委員長 登里委員。

○登里伸一委員 実は、新川が非常にオーバーフローする直前までいつも来て、土のうを積んだりして守っとるんですけども、三洋橋は、昔の橋脚がありますね。だから、そういう関係で、もし耐震とか老朽の関係で変えるのであれば、非常にいいかなと思うんですけども。その辺はいかがですか。

○阿部計一委員長 建設課長。

○建設課長（赤松啓二） ちょっと場所が確定というか、把握しかねるんですけど。山王橋ではないですね。先ほども言いましたように、今、私どもではその橋梁についての情報は持っていません。

○阿部計一委員長 登里委員。

○登里伸一委員 そういう関係もありますので、また情報を入れていただいて、できるだけ善処できたらいいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

もう一つお願いします。実は、先ほども松帆銅鐸のシンポジウムのお話をしておりましたが、私も意見があったらというところで、こういうシンポジウムを続けられないかなと、やっぱり継続することに何か意義があるかなと思うんですけども。このたびの市の主催でああいうシンポジウムをやって、やはり相当な予算が必要だったんか、その辺からまず聞きたいと思います。

○阿部計一委員長 社会教育課長。

○社会教育課長（福原敬二） 今回のシンポジウムにつきましては、予算的な措置は、ちょっと今、頭の中で幾らだったかというのは計算せなあかんんですけども、先生方、割と安くお越しいただきました。あと、PR経費だということだと思います。

来年度につきましては、これも3月の予算の委員会等で皆さんの承認をいただくわけですけども、このたびのシンポジウムは、先生方にお越しいただいたわけですけども、なかなか専門的なお話がありまして、市民の方々はちょっと難しかったのかなという思いがありますので、来年は、まず市民向けの、銅鐸だけにかかわらず、文化財の市民講座などをしながら、最終的にはもうちょっと近くの話題をするようなシンポジウムとか討論会、そういうのを開催をしながら、埋蔵文化財だけでなしに、普通の文化財も含めての市民の理解を深めていただきたいということで、次年度から新しい事業、新規事業として取り組ん

でいきたいというふうには考えております。

○阿部計一委員長 登里委員。

○登里伸一委員 非常に結構だと思います。それで、シンポジウムだけでなく、南あわじ市から出たいろんな銅鐸、銅剣等も展示していただいて、十分に地域の非常に古いものですから、誇りだと、宝だと思いますので、これからの展示等のいろんな、これを発展させていくことに大変興味を持っておりますので、努力をお願いしたいということで、終わります。

○阿部計一委員長 小島委員。

○小島 一委員 今ちょっとさっき出ましたあわじ国とかも、それなりに絡むんですけども、これは市がそうやってアドバルーンを上げて旗振って走ってるのは非常にいいことだと思うんですけども、例えば飲食組合とか観光協会、それから商工会、その辺の部分とちゃんと連携をとれているのか。走るばかりで、後ろもたまに見て、ついてきよるか確認する必要があると思うんで、その辺はどないですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） 商工会とはこれをつくる前に相談に上がりまして、既存のいいビデオをつくっていただいております。それも一部に活用させていただいております。それから、観光協会も本体の局長のほう、あるいは福良のほうと相談しながら、渦潮のビデオであったり、そういう手元のないものを調達するのにいろいろとお願いしております。

今、御指摘のあったように、今度、予算が通りますと、もっと商工会、観光協会と組みながら、市が先導するのではなくて、民が主体的に動くような仕組みができないかなというふうに考えております。

○阿部計一委員長 小島委員。

○小島 一委員 それも大事やけど、要するに、もう既に全国的に発信しとんのよの。やっぱりそれを見た人が、ええなと来るわけですわ。来たときに、どこで淡路の、南あわじのおいしいものを食べたいって、どこで食べてええんかわからん。行ったらしよらなんだとか、そういうふうな現地の実際に来て、何や、こんなもんかいなというふうな反応も

ないではないわけよの。

だから、例えば食の拠点に行っても、余り買うものがなかったと、特に平日は少ない。僕らもたまに行くんやけども、あれ、こんだけかいなというふうなこともあるわけよな。だからそこら辺、きちっと受け入れ態勢をつくらんままに走ってしもうて、それがやっぱり逆に、逆効果になる可能性があんのよな。ああ、よく言いよるけど、行ってもしゃあないでというふうな、リピーターをふやさんことにはあかん。

それから当然、今、この間も僕、奈良に行ってきたんやけども、そこらじゅう中国語だらけですわ。やっぱりそういうふうな外国人に対応することも言いよるんやけども、果たしてどんだけできとるんか、宿泊施設にしてもね。そこら、きちっと足元をかためもって走らんと、頭だけ行ってもうたら、後來た部分が反映されへん思うけど、どないですか。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） まさにそのとおりであります。といいますのは、国の100%補助金をいただくということがまず第一点で入ってきましたので、はっきり言いまして、なりふり構わずやらせていただいています。

しかしながら、非常にありがたいのは、商工青年部の一部の方、行政がこういうことまで踏み込んでやっていただくので、何か動くという気配を感じるのもうれしい、楽しいという方がちょこちょこ出始めておりますので、やっぱり若い人中心に、何とか今、小島委員御指摘のように、連携をしていきたい。ないしは、今度の加速化交付金の申請ではどう連携するかというのが一つの申請書内容の一つになっております。

今度、国民投票ということで、架空ですが、しますが、市内の三つの大きな施設、無料券を90名、180名分いただいたり、それから、市内のホテル群ですね、七つほど、松原荘も含めてですが、1泊2日の2食つきで提供いただいて、そういう全国にPRするときにそういうものが当たりますよということが目に触れるように、できるだけ連携をするようにさせていただいております。大分、おしかりもいただいたホテルさんも、高級ホテルさんもいらっしゃるんですけども、最終的には賛同していただいて、それをもうちょっと大きな渦に持っていったらというふうに思っております。

○阿部計一委員長 小島委員。

○小島 一委員 できることは何でもやっていってもらわなあかんわけで、例えば飲食店であれば、あわじ国ののぼりでも立てて、そこへ行ったら淡路の食材のものが食べられるわとわかりやすいようにやっぱりして行って、淡路に来て、淡路の魚を食べたいけど、どこへ行ったらええかわからん、これ、よう聞くねん。ほんまによう聞くんですわ。ほん

で大体、行きたい時間に行ったら開いてない。

やっぱり昼と夕方ぐらいは営業してもらわんことには、せっかく来たのに、どこで何買うていいんかわからん、何食べていいんかわからん、行っても大したことなかったというふうなことが今、半々。行ってよかったなという人としょうもなかったなという人が、僕の場合は半々か、それ以上あると違うかなというふうに思うんで、そこらやっぱりきちっとそういう関係団体とうまいこと協議して。まずは受け入れ態勢やと思うんでやな。

3年とらふぐ食べたいねんけど、どこに行っても食べたらいいかわからんと。だから、そういうメニューをつくったらええんと違いますか、1,500円ぐらいで少してっちらがったようなものとかやな。2,000円でも構わんと思うけども。

やっぱりそういう、うとうとんねんから、あわじ国でうとうとるものは、やっぱり淡路、ここへ来たらどこかでわかりやすいように、食べられるように、利用できるようにしてやらんと、ほんまに勝手に1人で鉢巻締めて走りよるだけのことになってしまうんでやな。そこら、ちゃんと考えてほしいと思うねんけど。

○阿部計一委員長 食の拠点推進課長。

○食の拠点推進課長（喜田憲和） それも、まさにそのとおりでございます、今、世界ではDMOということで、いわゆる地域商社を立ち上げて、宿泊所とかそんな負担金をとって、そこがまち全体の農畜産物もホテルも観光も文化も全部配信をして、ないしは、大きな会議を持ってってホテルに泊まっていたかというようなことを、みずから民が主体にやっているようなことがあります。

今回の加速化交付金も、それを目指せというような御指摘もあります。それも含めて、そこでいわゆる総合発信窓口、ウェブサイトにしても、そこでワンストップでどれだけ情報を入手できるかというような方向性に時代がなっております。御指摘のとおり、努力をさせていただきたいと思っております。

○阿部計一委員長 小島委員。

○小島 一委員 まず、考えると同時に、それ以前にやっぱり行動するというをお願いして、質問を終わります。

○阿部計一委員長 質疑がございませんので、質疑を終結します。

次に、その他に入ります。

何かございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○阿部計一委員長 その他、質疑がございませんので、執行部より報告事項がありましたら。ございませんか。

副市長。

○副市長(川野四朗) 1点、御報告と御協力をお願いしたいと思います。

この新庁舎ができて間もなく1年になるわけでございます。新庁舎に入るときに、鋭意を絞って組織の編成もやってきたわけでございますが、1年過ぎてみますと、少し手を加えるところがあるのではないかなというような感じもいたしました。

したがいまして、少しこの3月の議会に条例の改正を出させていただいて、組織をさわりたいと思っております。これは、皆さんもお気づきだと思うんですが、農商部をターゲットにしているわけですが、余りにも幅が広くて、なかなかまとまりがつかないというようなこともございます。また、やはり農業というのは、この南あわじ市の基幹産業でもございますが、農商部ということでは、余りその特色が出るようなこともないというようなことでもございますので、農商部を少し再編をいたしまして、農林水産部という形で、農林水産に特化したものをつくりたいというふうに考えておるわけございまして、必要な条例改正を3月議会に出させていただきます。

したがいまして、一部、それに伴って課の異動というものもできますし、課の新設ということもできますので、また条例審査のときに詳しく申し上げますが、そういうことを考えておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○阿部計一委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○阿部計一委員長 今、副市長からそういう話、所管が変わるといような話があったわけですが、これはもう、委員長としての感じで、これは副市長、委員会構成のときに、各議員は、それぞれの所管を目的に、それぞれ異動して決めているわけです。そういうことで、もう議案書に上がってくるやいうことを言うてますけども、この後、また各議員にもそういう話をよくして、御理解をいただけるような話をしていきたいと。

ただ、そういうことで、そういう役員改選のときに、各議員もそういうことを十分理解した中で異動しとるんでね。やっぱり、余り一方的なことでしたら、御理解をいただけるかいただけんかわからんけども、やっぱりその辺、よく検討したいと思います。

それでは、これで委員会は一応終了しますけども、委員の皆さん、ちょっと御相談した

いことがございますので、お願いしたいと思います。

副委員長、閉会の御挨拶を。

○谷口博文副委員長 どうも皆さん、産業厚生常任委員会、これをもって閉じさせていただきます。どうも御疲れでございました。

(閉会 午前11時54分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成28年 2月12日

南あわじ市議会産業厚生常任委員会

委員長 阿部 計一